



旭産業の山田社長

「エアゲージの校正を」

エアゲージの専門メーカー、旭産業(本社・東京都)は、クルマ社会の安全・安心を実現するために、タイヤ空気圧管理を正しく行うことが重要だと強く訴える。正しい空気圧管理を担保するのがエアゲージであり、それには定期点検が欠かせないという。同社代表取締役の山田啓路氏に、エアゲージの精度管理の仕方、同社の取り組みについて話を聞いた。

正しく空気圧管理を行うために

一般的にエアゲージの耐用年数は、使用環境や使用条件によって、耐用年数は大きく変わってきます。エアゲージは工具ではなく計測器精密機器ですので、耐用年数自体のとりえ方が異なります。エアゲージは常に精度が保たれ、正常な機能が維持されなければなりません。従って、その耐用年数は1年。精度を維持するために少なくとも1年に1度、校正を行うことをお奨めしています。

エアゲージの使用に際して心掛けておくべき点とは、「他の計測器にも同じことが言えますが、エアゲージは水分に弱いのです。特に圧縮空気を使った際にコンプレッサーや配管などに溜まる水が、エアゲージを故障させる原因となり得ます。圧縮空気を使用する前や後にしっかりと水抜きをす

る、あるいはエアドライヤーをお使いいただくなどして、水分から守っていただくたい。

またエアゲージはその形状から工具のように思われがちですが、あくまでも計測器です。強い衝撃や振動は避けていただきたい。当社の製品は耐衝撃性に強いバネ構造を採用しています。また、これも始業前点検が、それでも落ちたり、何かにつけたり、放り投げられると故障の原因となります。大事に扱っていただくたいです。

精度を維持するためには校正を行っていただくたい。有償ですが校正することで、長期間にわたり製品をお使いいただけます。毎年欠かさず校正に出されることで20年以上も当社製品を愛用いただいているお客様もいらっしゃいます。理想では、毎日の始業前に点検を行うことをお奨め

します。当社ではエアゲージの精度をチェックすることができる精度チェッカーという製品を開発しています。基礎器の役目を果たすもので、これで始業前点検を確実に行っていただくたい。当社としても、その普及を図るべく、卸販売先へ無料貸し出しキャンペーンを展開したり、精度チェ

ッカーを使用しての点検活動を企画しています。また「タイヤゲージの日」という記念日を「タイヤの日」の前日の4月7日に制定し、エアゲージの日常管理の重要性について意識啓発を図っています。さらにメーカーとして、より簡単に精度をチェッカーすることができないかというものができないかという要望がまたまた多くあると思います。当社としては多くのご意見をいただき、その皆様の声を元に商品化に努めて参ります。今回の記事を多くの皆様に読んでいただき、エア



をジョーカーボス
エアゲージ
精度チェッカー
無料点検サービス

将来、クルマ社会はさらに自動化運転が進むことで、クルマ全体の安全・安心が最重要視されてくるでしょう。それにもない、タイヤ空気圧の管理もさらに重要なものになると思います。より良いエアゲージをお使いいただき、またその精度を維持することで、オーナードライバーの皆様の安全・安心を強固なものにし、信頼を勝ち取っていただきたいと思

用しておかしく感じられたとき、あるいは激しくぶついたり落下させたりしたときはすぐに修理に出し